

へき地学校における中学生の特徴 1

―教員への面接調査から―

○谷 篤彦 (横浜国立大学)
井上果子 (横浜国立大学)

大西恭子 (東京学芸大学大学院連合学校)

キーワード：へき地学校，教員，面接調査

問題と目的

へき地学校とは「交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地、離島その他の地域に所在する公立の小学校及び中学校並びに中等教育学校の前期課程並びに学校給食法第六条に規定する施設」と定義されている(文部科学省, 2015)。

へき地は都市部とは文化や環境が大きく異なるため、へき地学校の児童生徒には都市部とは異なる特徴が見られると推察される。特に思春期である中学生には性格や発達の差が大きいと考える。

しかし、へき地の中学生の心理的特徴を明らかにした研究は少ない。そこで本研究では、へき地学校に勤務する教員を対象に面接調査をおこない、教員がとらえる「へき地学校における中学生の特徴」を明らかにすることを目的とする。

方 法

調査方法 半構造化面接法による調査を行った。面接場所は教員の勤務する中学校の相談室であった。面接時間は一人当たり30分～40分であった。

調査対象者 へき地学校の指定(3級)を受けているT県内の公立中学校に勤務する教員11名(男性6名・女性5名、年齢33歳～53歳)であった。

調査内容 調査対象者に、へき地と都市部それぞれの中学生を想起し、比較した上で違いについて語るように求めた。

結 果

調査結果の整理 調査実施者が、録音した音声から逐語データを書き起こした。「へき地学校における中学生の特徴」に該当する項目を抜き出して分類し、22のカテゴリーに整理した(表1)。

数量化Ⅲ類 「へき地学校における中学生の特徴」の22カテゴリーを分類するため、数量化Ⅲ類の解析を行った。その結果、固有値の高い順に第1軸と第2軸を採用した。それぞれの軸の固有値は第1軸が.49、第2軸が.24であった。カテゴリーのまとまりをより明確に解釈するため、Ward法によるクラスター分析を行い、解釈可能な3つのクラスターを抽出した(図1)。

考 察

クラスターⅠは、学校での生活態度や生徒同士・教師との関係性に関するカテゴリーで構成されていたため、「学校生活」を表すと解釈された。クラスターⅡは、家庭での生活態度や遊びに関するカテゴリーで構成されていたため、「遊びや生活態度」を表すと解釈された。クラスターⅢは、保

護者や家庭との関係性に関するカテゴリーで構成されていたため、「家庭環境」を表すと解釈された。

このように「へき地学校における中学生の特徴」について、大きく3つの特徴が明らかとなった。

表1 「へき地学校における中学生の特徴」

No.	カテゴリー	略名
1	悩みが少なく	悩み
2	教師に相談をすることが少ない	教師への相談
3	競争心が低い	競争心
4	授業や行事に対して積極的に取り組む	授業・行事への積極性
5	友人関係のトラブルが少なく、関係が親密である	友人関係の良さ
6	恋愛関係が少なく	恋愛
7	男女の仲がいい	男女の仲の良さ
8	友人関係が固定化しており、合わないときに別のグループに移れない	友人関係の固定
9	生徒指導の問題が少なく、ルールを守る	ルール
10	教師に礼儀正しく、言葉づかいが丁寧	教師への礼儀
11	一人ひとりへの指導や授業が丁寧である	指導の手厚さ
12	宿題や提出物がきちんとそろう	宿題・提出物
13	休日や放課後は外で遊ぶ場所がなく、家の中で遊ぶ	休日・放課後
14	インターネットをよく利用する	インターネット
15	オンラインゲームをよくする	オンラインゲーム
16	携帯電話やスマートフォンを持っていない	携帯電話
17	片親や両親のいない家庭の割合が多い	片親
18	子どもにとって祖父母の存在が近く、影響が大きい	祖父母
19	子どもにとって家庭の環境が良い	家庭環境
20	学校に協力的な保護者が多い	保護者の協力
21	家族と一緒に過ごす時間が長い	家族との時間
22	保護者同士の関係が子ども同士の関係に反映されやすい	保護者の関係

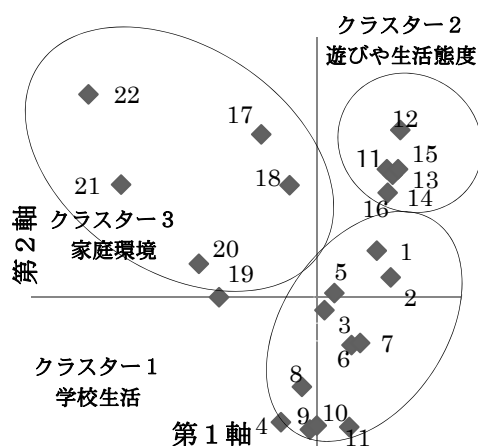


図1 数量化Ⅲ類の図 (番号はカテゴリー No.)